

## 前回いただいた主な御意見

- 本土で回復期まで完結した方が、医療としての質は高く患者にとってメリット
- ICTを活用した連携会議を積極的に行い、日頃から顔が見える関係性を構築するとともに、年に一度程度は対面での顔合わせなども必要
- 早期帰島のために連携会議、特に退院前のカンファレンスは必須
- 離島でどのようなリハビリが提供できるのかを、本土のセラピストと共有しておく、帰島後のリハビリを想定しやすい
- 離島で必要な動作や環境は本土とは違う為、お互いの当然と思っている事を事前に共有できるとゴール設定がしやすい
- リハビリテーションの体制とともに、ご家族等の協力や介護サービス等の在宅支援体制の充実が重要